## 臨床調査個人票

	新規	更新
_		 

## 315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/

## LMX1B 関連腎症

## ■ 行政記載欄

受給者番号						判定結果	認定	[	一一不認定
■ 基本情報									
姓 (かな)						名 (かな)			
姓(漢字)						名(漢字)			
郵便番号							·		
住所									
生年月日		西暦			年	月		日 *以 記	降、数字は右詰めで 入
性別		□ 1. 男 □ 2. 女							
出生市区町村									
出生時氏名		姓 (かな)					名 (かな)		
(変更のある	場合)	姓(漢字)					名(漢字)		
		□ 1.あり				□ 2. なし		□ 3.不	明
		発症者続柄							
家族歴		□ 1.父			2.	<u> </u>	□ 3.子		4. 同胞(男性)
		□ 5. 同胞(女性) □ 6. 祖父(父方) □ 7. 祖母(父方)							
		□ 8. 祖父(母方) □ 9. 祖母(母方) □ 10. いとこ							
		□ 11. その他 *11 を選択の場合、以下に記入							
		続柄							
発症年月		西暦			年	月			

社会保障							
介護認定	□ 1. 要介護	②. 要支援	☐ 3. <i>t</i> .	2L			
要介護度		<u> </u>	<u> </u>	<u> </u>			
生活状況							
移動の程度	<ul><li>□ 1.歩き回るのに問題は</li><li>□ 3.寝たきりである</li></ul>	<i>'</i> \$\\	2. いくらか問題が	ある			
身の回りの管理	<ul><li>□ 1. 洗面や着替えに問題</li><li>□ 3. 自分でできない</li></ul>	はない	2. いくらか問題が	ある			
ふだんの活動	<ul><li>□ 1. 問題はない</li><li>□ 3. 行うことができない</li></ul>		2. いくらか問題が	ある			
痛み/不快感	□ 1.ない	□ 2. 中程度ある	<u> </u>	トどい			
不安/ふさぎ込み	<ul><li>□ 1. 問題はない</li><li>□ 2. 中程度</li><li>□ 3. ひどく不安あるいはふさぎ込んでいる</li></ul>						
■ 診断基準に関する事項 (1)ネイルパテラ症候群 (爪膝蓋骨症候群) A. 主項目  爪の低形成あるいは異形成 (手指に多く、特に母指側に強い。足趾にある場合は 小指側が強い。程度は完全欠損から低形成まで様々である。 三角状の爪半月のみを呈する場合や、縦走する隆起や さじ状爪、変色、割裂等がみられることもある。生下時から 認められることが多いが、軽症であると気づかれにくい。)							
B. 副項目							
1. 膝蓋骨形成不全							
2. 肘関節異常		□ 1. 該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明			
3. 腸骨の角状突起							

C. 遺伝学的検査						
遺伝子検査の実施	<u> </u>	実施	□ 2. 未実	施		
□ LMX1B 遺伝子のヘテロ接合体変異						
変異内容						
D. 鑑別診断						
以下の疾病を鑑別し、全て除外できる。 除外できる疾病には☑を記入する。	1. 全て除タ	卜可	除外不可	] 3. 不明		
☐ Meier-Gorlin 症候群 ☐ Genito	patellar	症候群	☐ DOOR	症候群		
□ 8トリソミーモザイク症候群 □ Coffin	r-Siris 症	候群/BOD 症例	戻群 □ RAPAI	DILINO 症候群		
E. 参考項目						
1. ネイルパテラ症候群の家族歴		□ 1. あり	□ 2.なし	□ 3. 不明		
2. 腎障害 (血尿、蛋白尿、あるいは腎機能障害)		□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明		
3. 腎糸球体基底膜の特徴的電顕所見						
病理像として、腎糸球体基底膜の肥厚および 虫食い像(moth-eaten appearance)が見られる		□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明		
肥厚した糸球体基底膜中央の緻密層やメサンギウ 内において、III 型コラーゲン線維の沈着が見ら		□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明		
<診断のカテゴリー>						
Definite: Aを満たし、Bの1項目以上あるいはCを Dの疾病を全て除外したもの	た満たし、	□ 1. 該当	<u> </u>	非該当		
(2)LMX1B 関連腎症						
A. 主項目						
1. 腎障害(以下の尿所見異常(血尿または蛋白尿) あるいは腎機能障害のいずれかを満たす)		□ 1.該当	□ 2. 非該当	□ 3. 不明		
□ 血尿は定性で 1+以上 □ 蛋白尿は 0. 15g/gCr 以上						
□ 腎機能障害 eGFR<90mL/分/1.73m²以下						
2. ネイルパテラ症候群の診断基準を満たさない	□ 1.該当	2. 非該当	3. 不明			
B. 副項目						
腎糸球体基底膜の特徴的電顕所見が以下に該当する		□ 1.該当	2. 非該当	□ 3. 不明		
病理像として、腎糸球体基底膜の肥厚および虫食 さらにリンタングステン酸染色あるいはタンニン				される		

C. 遺伝学的検	査						
遺伝子検査の	実施				□ 1. 実施		②. 未実施
LMX1B	遺伝子のへ	テロ接合体変	異				
変異内容							
D. 鑑別診断							
以下の疾病を経験外できる疾病				1. 全て除外〒	丁 2. 除外	不可	□ 3. 不明
□ 腎の飛	態異常			LMX1B 以外の	腎疾患の原因と	なる既然	即の遺伝子異常
<診断のカテコ	リー>						
Definite: A@ 満		満たし、Bある 疾病を全て除り			1.該	当	2. 非該当
症状の概要、経	過、特記す	べき事項など	` *250 文字	学以内かつ7行	以内		
*関節症状に対す	る手術歴につ	いても記入する					
■ 発症と経過	h						
発症年齢		歳					
初発症状	-						
1/17/11/11/4/							
■ 検査所見	*小数点も1	文字として記入	する				
尿検査	T						
検査年月	西暦		年	月			
尿蛋白	1		2. ±	3. +	4.2	+	□ 5.3+以上
尿潜血	1		2. ±	3.+	4.2	+	□ 5.3+以上
1日蛋白量			g/日	尿蛋白 g/g	gCr		g/gCr

検査年月   西暦	血液検査							
eGFR	検査年月	西暦 年 月						
腎生検所見         年 月         所見         治療その他         1. 関節症状に対する手術       1. あり 2. なし 3. 不明         2. 緑内障に対する手術       1. あり 2. なし 3. 不明         3. 慢性腎疾患(糸球体障害)の治療       1. あり 2. なし 3. 不明         アンジオテンシン変換酵素阻害薬       アンジオテンシン II 受容体拮抗薬         4. 末期腎不全の治療       1. あり 2. なし 3. 不明	BUN	mg/dL クレアヲ	ニン		mg/dL			
検査年月 西暦	eGFR	mL/分/1.73m <sup>2</sup>						
所見	腎生検所見							
■ 治療その他  1. 関節症状に対する手術	検査年月	西暦 年 月						
1. 関節症状に対する手術       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明         2. 緑内障に対する手術       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明         3. 慢性腎疾患(糸球体障害)の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明         □ アンジオテンシン変換酵素阻害薬       □ アンジオテンシン II 受容体拮抗薬         4. 末期腎不全の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明	所見							
2. 緑内障に対する手術       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明         3. 慢性腎疾患(糸球体障害)の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明         □ アンジオテンシン変換酵素阻害薬       □ アンジオテンシン II 受容体拮抗薬         4. 末期腎不全の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明	■ 治療その他	L						
3. 慢性腎疾患(糸球体障害)の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明         □ アンジオテンシン変換酵素阻害薬       □ アンジオテンシン II 受容体拮抗薬         4. 末期腎不全の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明	1. 関節症状に	対する手術	□ 1. あり	□ 2.なし	□ 3. 不明			
□ アンジオテンシン変換酵素阻害薬       □ アンジオテンシン II 受容体拮抗薬         4. 末期腎不全の治療       □ 1. あり □ 2. なし □ 3. 不明	2. 緑内障に対	する手術	□ 1. あり	□ 2.なし	□ 3. 不明			
4. 末期腎不全の治療	3. 慢性腎疾患	(糸球体障害) の治療	□ 1. あり	□ 2.なし	□ 3. 不明			
	□ アンジオテンシン変換酵素阻害薬 □ アンジオテンシン II 受容体拮抗薬							
□ 維持透析 □ 腎移植	4. 末期腎不全の治療							
		透析	Ī					

■ 重症度分類に関する事項							
慢性腎臓病重症度分類でCKD 重症度 あるいはいずれの腎機能であっても 0.5g/gCr 以上のものを対象とする	,	□ 1.該当	□ 2. 非該当				
CKD 重症度分類ヒートマップ	□緑	□ 黄		□ オレンジ	一赤		
① GFR 区分 (mL/分/1.73 ㎡)	<ul><li>G1 (正常または高値: ≥90)</li><li>G2 (正常または軽度低下: 60~89)</li><li>G3a (軽度~中等度低下: 45~59)</li></ul>						
	□ G3b (中等度~高度低下:30~44) □ G4 (高度低下:15~29) □ G5 (末期腎不全 (ESKD): <15)						
② 蛋白尿区分 尿蛋白定量(g/日)あるいは 尿蛋白/Cr 比(g/gCr)		E常 0. 15 未満) B度蛋白尿 0. 18	5∼0. 49	)			

□ A3 (高度蛋白尿 0.50以上)

□ 1.0.5g/gCr 以上

□ 2. 0. 5g/gCr 未満

■ 人工呼吸器に関する事項(使用者のみ記入)

蛋白尿/クレアチニン比

使用の有無	□ 1. あり
開始時期	西暦 日 月
離脱の見込み	□ 1. あり □ 2. なし
種類	□ 1. 気管切開孔を介した人工呼吸器
	□ 2. 鼻マスク又は顔マスクを介した人工呼吸器
施行状況	□ 1. 間欠的施行 □ 2. 夜間に継続的に施行
加1 J 1人亿L	□ 3. 一日中施行 □ 4. 現在は未施行

	食事	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
	車椅子とベッド間の移動	□ 自立	□ 軽度介助
	+ HI 1 C - > 1 HI - > 1 D 20	□ 部分介助	□ 全介助
	整容	□ 自立	□ 部分介助/不可能
	トイレ動作	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
H-75,12,70	入浴	□ 自立	□ 部分介助/不可能
生活状況	歩行	□ 自立	□ 軽度介助
	2/11	□ 部分介助	□ 全介助
	階段昇降	□ 自立	□ 部分介助 □ 不能
	着替え	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
	排便コントロール	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
	排尿コントロール	□ 自立	□ 部分介助 □ 全介助
医療機関名			
指定医番号			
医療機関所在地	1		
電話番号			*ハイフンを除き、左詰めで記入
医師の氏名			印
			※自筆または押印のこと
記載年月日	西暦	年 月	目
診断年月日	西暦	年 月	日

- ・病名診断に用いる臨床症状、検査所見等に関して、診断基準上に特段の規定がない場合には、いずれの時期のものを用いても差し支えありません。(ただし、当該疾病の経過を示す臨床症状等であって、確認可能なものに限ります。)
- ・治療開始後における重症度分類については、適切な医学的管理の下で治療が行われている状態で、直近 6 か月間で最も悪い状態を記載してください。
- ・診断基準、重症度分類については、
- 「指定難病に係る診断基準及び重症度分類等について」(平成 26 年 11 月 12日健発 1112 第 1 号健康局長通知)を参照の上、ご記入ください。
- ・診断年月日欄には、本臨床調査個人票に記載された内容を診断した日を記載してください。
- ・審査のため、検査結果等について別途提出をお願いすることがあります。